

令和6年第6回議会活性化特別委員会会議録

1. 日 時 令和6年12月9日（月）
2. 場 所 白井市役所本庁舎4階 大委員会室
3. 議 題 （1）議会改革に係る検討事項について
4. 出席委員 長谷川 則 夫 委 員 長・小田川 敦 子 副 委 員 長
秋 谷 公 臣 委 員・柴 田 圭 子 委 員
古 澤 由紀子 委 員・石 井 恵 子 委 員
伊 藤 仁 委 員・田 中 和 八 委 員
広 沢 修 司 委 員・平 田 新 子 委 員
徳 本 光 香 委 員・荒 井 靖 行 委 員
石 原 淑 行 委 員・久保田 江 美 委 員
石 田 里 美 委 員・武 藤 美砂子 委 員
根 本 敦 子 委 員・岩 田 典 之 議 長
5. 欠席委員 なし
6. 会議の経過 別紙のとおり
7. 議会事務局 局 長 松 岡 正 純
主 査 補 會 卓 也
主 任 主 事 篠 田 順 子

委 員 長 の 挨 拶

○松岡正純議会事務局長 定刻となりましたので、始めさせていただきます。

会議に先立ちまして、長谷川委員長より御挨拶をお願いいたします。

○長谷川則夫委員長 皆さん、おはようございます。議会活性化委員会もいよいよ最終場面に向かうことになっております。今日は最終報告をしていただきまして、今後の判断材料としていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○松岡正純議会事務局長 ありがとうございます。

委員会会議につき、議事等につきましては長谷川委員長をお願いいたします。

会 議 の 経 過

開会 午前10時00分

○長谷川則夫委員長 ただいまの出席は17名です。委員会条例第16条の規定により定足数に達しております。これより令和6年第6回議会活性化特別委員会を開会いたします。

本日の会議はお手元に配付の日程表のとおりでございます。

(1) 議会改革に係る検討事項について

○長谷川則夫委員長 日程第1、議会改革に係る検討事項についてを議題とします。

今日は各プロジェクトチームから最終報告をしていただきまして、その後、質疑を受けて、最終判断につきましては今日はしませんでした、お持ち帰りをいただいて、各会派で検討していただいて、次回皆様の判断を仰ぎたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、初めにAI議事録プロジェクトチームのほうから発表をお願いします。

平田委員。

○平田新子委員 おはようございます。皆様のサイドブックスの本日の分の議事日程の次、「AI議事録参考資料-3」というところを開いて見ていただきたいと思っております。御準備よろしいでしょうか。

前回までの振り返りで言いますと、いろいろな議会でAI議事録を導入しているところにアンケート調査をいたしました。それは、うちはこのシステムでやっているということだけの報告でした。実際それに幾らぐらいお金がかかるのかというのが今回の調査の焦点です。

まず上から申しますと、星印でプロボクストがあります。これもアミボイス、要するに分かりやすく言うと、トヨタという自動車を作っている会社があって、販売会社がいろいろあります。車の種類も高級車のラインがあったり、いっぱいの中種があったりということで、アミボイスは分かりやすく言えば作っている本体企業のトヨタみたいなものです。プロボクストや、後から出てくるものとかは

車種の違いみたいなものです。要するにアミボイスの中にも種類があるということです。実際見積りを出しているところが販売会社です。ということで、販売会社は幾つもありますので、この価格が決定ではありませんけれども、一応参考として調べた価格ということになります。

そこまで御理解いただいて、プロボクストというのは何かというのを右側を書いてあります。自治体から企業、幅広い業種で活用されているワンストップでのクラウド型音声ファイル文字起こしサービスです。クラウド型ということで、音声ファイルをそのまま、もう瞬間的に文字起こししていくことができ、音声ファイルをアップロードするだけで議事録が作成、共有、編集ができますというものです。

価格帯の見方ですけれども、これは大和云々という会社にとった見積りが、大和の1、2、3、それから、別の会社でつくばというところにも取りました。

大和1、2、3を比べていただきますと、プロボクストと書いてあるところの下が上限20時間、上限30時間、上限50時間ということで、時間数、つまり議会の時間に応じて選べる形で値段が変わってきます。それぞれ備考ですけれども、これはインターネットとかL G W A Nで利用が可能です。また、市のほうで単語を登録してどんどんブラッシュアップしていくことが可能です。この3つは初期費用が全部同じ値段で25万円、導入時にのみかかります。月ごとの使用料が、プロボクストの一番下の括弧のところに、月額幾らと書いてあるんですけれども、1年間を通して、あるいは年度を通して申し込むことによってサービス契約ができるということで、例えば20時間でいいますと25万円掛ける12か月じゃなくて、割り引きされて30万円になる。先ほどの初期設定の費用と月額使用料、1年間分を合わせると60万5,000円、消費税はそのうちの5万5,000円かかるという見方になります。今日は一つ一つの説明は省きますけれども、皆さん、今後じっくり検討していただいて。時間数の金額がどれぐらいかというようなこともありますので。

それで、一番下のつくば1、これに関しては、利用時間が最初から月100時間となっており、初期費用は要りません、導入費用は不要ということです。それで、1年間をざっくりまとめて、消費税とかを合わせまして158万4,000円になります。ちょっとおかしくないですか。96万円が何で158万円になるのか。すみません、もしかして資料が間違っているかもしれませんので確認いたします。とにかく100時間で96万円というのは間違いないので。合計が間違っているかもしれません。

それで、時間数については事務局に確認を取らないと、20時間で申し込んでいて、例えば足りなければ追加料金が発生するということがありますので、時間に関してはきちんと事務局に確認して精査したほうがいいと思っています。

次のページをお願いします。これはエンジンチューニング、先ほどの大和の1、2、3、4に付随するものなんですけれども、1年に1回議事録を読み込ませて、例えば「ししば」はライオンの場所じゃなくて「神々廻」という字だとかということを最初に設定して、白井にカスタマイズしたものを作ることができるということです。ワードやエクセルの議事録を用いて辞書機能を白井に特化したも

のを作る。それが7万7,000円かかるんですけども、これについては毎年かける必要はなくて、できることなら最初の年だけかけて、それであとはもう要らない。自然に何かほかのものを使うときにブラッシュアップできるということです、これは必ず入れなきゃいけないということではないとは思っています。

それから、次の星印、スクライブアシストというのは、またアミボイスの中の別の種類のものです。これはオフラインで使えるということで、録音からテキスト化、編集、要約までをワンストップで実現する議事録作成の自動化アプリケーションということで、議事録作成を大幅に短縮することができますというものです。

先ほど2社を比較しました。大和のほうとつくばのほうと両方出ております。

まず、大和のほうでいいますと、時間数としては上限なし、初期費用が25万円かかります。先ほどのプロボクストと違うところは、1ライセンスという考え方です。ライセンスを獲得すると、例えばこの間お試しに市と議会と両方に使ったというのは、あれはライセンスが2つ来ていたので別々に使わせていただいたということで、1ライセンス取っておくといろいろな部署で何台のパソコンで使ってもといったような使い方ができるものです。このオフラインと、先ほどのプロボクストはインターネットをつないでという点が違いです。

これは取りあえず特約特価みたいなんですけど、令和7年4月までにGPT要約機能をリリースする予定ということで、これはサービスということです。

下にも書いていますけれども、インターネットが不要。オフラインでできます。市で単語を登録してどんどんブラッシュアップすることができます。これが年間で、時間の上限なしということで、100万円をちょっと超える値段になっております。

次がつくばのほうです。こちらは基本料が月額5万円かかります。月額ということは12か月で60万円です。それと別にライセンス料です。大和さんのほうはライセンス付きだったんですが、こちらはライセンス料として月額1万円かかります。それから、専用音声認識辞書を利用すると、こちらは利用料金が発生して月額4万円です。それをトータルしますと消費税込みで132万円ぐらいになります。認識方式としては、ノードロック、USBキーフローティングライセンス、いずれか1つを使ってください。もしライセンスを議会だけじゃなくて執行部のほうでも利用するみたいなことで増やす場合は1万円かかります。こちらは導入費用は要りませんということです。

今、簡単に説明しただけでははっきりお分かりならない、イメージが湧かないという方は、改めて会派とかで話し合いになるときに呼んでいただいたら説明に伺います。

それで、この間、早稲田大学のマニフェスト大賞で賞を取られたのが奥州市議会だったんです。奥州市議会は前回のいろいろな自治体で導入しているところというところにも既に入っていたんですけども、奥州市議会のほうでは、これから後で字幕のほうで説明があると思うんですけども、字幕のあれは何でしたか。

○徳本光香委員 UDトーク。

○平田新子委員 そう、UDトークを、奥州市議会で直接奥州市議会の議員と、それからそこに導入している会社の人にお会いしたので、根掘り葉掘りお聞きました。そうすると、奥州市議会は議事録作成と全く別にUDトークを使っています。UDトークは映像配信の下に字幕が出るんじゃなくて、ちょっと見にくいと思いますけれども、議場で映像として字幕が別画面で出る形で利用されているそうです。

UDトークに関して正確性はどうなんですかと言ったら、「正確性は捨てています。瞬間的に流れるだけなので、間違いがあろうが何だろうが構わないし、お構いなしに流しているだけです。」という事で、議事録は正確性を要するので、2つを全く分けて利用していますということでした。

以上で報告を終わります。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございます。

ただいまの報告に対して御質問がある方はいらっしゃいますか。

久保田委員。

○久保田江美委員 今、議事録作成にかかっている予算と、これを入れることに対する比較みたいなというのは。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 ファイルのその次の資料を見てください。これは前回お示ししたものですけれども、現状でかかっている費用をもう一回見やすいように同じファイルに入れていただきました。今は録音したものを文字起こしに出して、それが戻ってきて、私たちが字句の訂正をしてくださいというので細かいところを修正して、というやり方なんですけれども。

お値段に関しましては、下のほうの、費用というところをご覧ください。令和6年度契約単価ということで、14日間かけて納品すると1時間当たり1万5,000円、7日間で納品してください、急いでくださいというと1時間当たり1万9,500円、3日で納品してくださいというと2万7,000円。そういうことで、今は14日納品というタイプを選んでおり、それで予算総額が598万円になっています。

先ほど比較用としてA I 議事録の価格を幾つか出しました。初期費用とか込みでも一番高いものでも150万円いかないぐらいです。ということで比較すると、やっぱり文字起こしをしていただいてという現状のやり方はすごく高くなり、比較するとA I 議事録のほうが安くなるかなということではありますけれども。

ここで値段だけは決められないところが、執行部の作業量というか、その辺に関しては、皆さんが導入するかどうかを決めていただいた上で、改善点を話し合っていけばいいかなと思っています。

改善の1つとしては、事務局で全部を修正とかそういうのをやってくださいというのではなくて、例えば委員会ごととか、それぞれの議員が自分の所掌するところを修正したり、字の間違いなんかを見ていくという協力ができるのではないかなというのは、今後の話合いとしてお預けしたいと思っています。

ます。

以上です。

○長谷川則夫委員長 今のを補足しますけれども、委員会で委員長報告のある議事録に関しては、特急ということで3日納品でやっていただいていますので、ここにも書いてありますけれども、その分は高くなっています。

久保田委員、何かありますか。久保田委員。

○久保田江美委員 もし事務局だけでできないとなると人を雇うことになるかもしれないんですけれども、そういったところの費用とかは見ていらっしゃるでしょうか。それは見ていないですか。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 まず入れるかどうかを皆さんに決めていただいて、人を入れるとかいうのは私たちの権限でできるのかどうか。執行部のほうで人を回していただいたりということになると、いずれにしましても執行部との協議が必要だと思っています。

○長谷川則夫委員長 久保田委員、よろしいですか。久保田委員。

○久保田江美委員 ある程度その辺の値段感も含めて、多分この検討は入ってくるのかなと思うので、今そこでの判断は非常に大事なのかな。一応どうですか。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 今、事務局にいらっしゃる方も給与というのは白井市からもらっていらっしゃるんですね。その辺に関して、だから私たちが決められない、執行部との話合いがというので、年中1人を常駐として増やすのか、期間限定で繁忙時だけ手伝っていただく人を増やしてもらうのか、あるいは全く人を増やさずに、即日出来上がる議事録が即日じゃなくてもいいよと、二、三日間の時間の余裕を取って、私たち議員も手伝ってみるよということになると、人は全く増やさなくていいわけです。だから、その選択は、AI議事録を入れるかどうかを決めた後で、また別のテーマとして、今日一緒に考えないほうがいいかなと思っています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。

石原委員。

○石原淑行委員 今の付け足しか確認になっちゃうんですけれども、現行の議事録作成も、今、事務局の方は結構関わっていますか、あまり携わっていないんですか。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 事務局の方は、録音したものを相手方に渡す。すると、文字になって上がってきます。それで私たちに字句の訂正をと流されます。だから、基本的に文字の修正とかはなさっていない状態です。だから、AI議事録になって、それを全部執行部にと押しつけると、業務負担が非常に増えるというところを私どもは懸念しております。

以上です。

○長谷川則夫委員長 石原委員。

○石原淑行委員 では、今は間に入ってもらっているだけで、基本的には業者がやっていて、私たちが字句を確認しているのも、その作業は新しく入れるものになっても入ってくるというところでもいいんでしょうか。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 本人が、例えば一般質問なんてほかの人が訂正しても分からないことが、ある訳ですから、やはり字句の訂正というのはそれぞれ発言した人の責任でちゃんと確認していただくという作業は続いていくと思います。

委員長、どうでしょうか。

○長谷川則夫委員長 事務局に確認しますけれども、今現在、委託によらない部分で議事録作成というものはありますか。事務局長。

○松岡正純議会事務局長 現在委託している状況で、事務局の作業というのは、先ほどお話が出ますとおり、委託業者から上がってきた議事録の確認を各議員の皆さんに確認していただく、それから、執行部のほうにさせていただくというところ以外ではないと言っていいと思います。

○長谷川則夫委員長 ということです。

ほかにございますか。

荒井委員。

○荒井靖行委員 質問なんですけれども、見積り価格の比較というところに月額利用ということで書いてあるんですけれども、例えば4月は使いませんのでその分その月は要りませんとか、そういうことは可能でしょうか。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 あくまで12か月あるいは1年度というくくりでこの割引価格になっていますので、1か月使うか使わないかはこちらの問題であって、費用としてはこのパックの価格ということになると思います。

それで、もう初年度予算には間に合わない時期ですので、これは次年度の、つまり令和8年から始める形で、それまでに話合いがまとまっていけばいいかなということで私どもは提案もしているし、調査もしております。

以上です。

○長谷川則夫委員長 荒井委員、よろしいですか。

○荒井靖行委員 はい、大丈夫です。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 まず事務局に確認です。さっきのお答えになったところなんですけれども、

委託から上がってきた議事録を議員と執行部に回すのが議会事務局の作業というお話だったんですが、それに対して文字修正が加えられたりするじゃないですか。それを修正するのは委託会社の作業になるんですか。

○長谷川則夫委員長 松岡事務局長。

○松岡正純議会事務局長 その修正は事務局で行っております。頻度としては微々たるものだと思います。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 分かりました。

あと、平田委員に質問です。先ほど久保田委員のほうから、人件費分の見込みについては運用によっていろいろとパターンが考えられるので今回は積算していないというお話でしたが、作業量という、時間としてはどれぐらいかかるというのは今回の調査で確認されていますか。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 そのときの議事の内容によって全然違うと思うんです。朝からずっと夕方まで議事があった日と、2時間だけの日、それによっても作業が全然違ってくると思います。ただ、担当になっている委員会あるいは一般質問なんかの御本人、それに関してはどんなに時間が短縮になったにしても長くなったにしても、担当した人は変わらないということで、その辺は普通に文字起こしをお願いした後に字句の訂正をするような感じで、それぞれの方に上がってきたA I 議事録での文字起こしの原稿を見ていただければ、修正は事務局に集中しないのでできるかなということはぼんやり考えてはいます。

以上です。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 見積りとして年間どれぐらいか、議事に関しての議事録の時間はもう見込みとして立っているわけなので、それに対して作業量がどれぐらいというのは比較検討の上で必要かなと思いましたので、そこがぼんやりしているからこの金額をどう見ていいのかというのが分かりづらいなと思ったのが1つ。

それともう1つ、具体的に数字の部分なんですけれども、現行に関しては598万円かかっていますというお話でした。それに関して、今回提案があった見積り価格を、もう単純に598万円に対して、例えばプロボクストの大和1だったら年間60万5,000円になりますよという見方で比較していいんですか。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 そのとおりです。私の資料の左側の価格と書いているところは、初期設定価格も月額価格も合計した、年間にこれしかかからないという、これが全てという価格なので。だから一番時間数が多いもの、つくばのように100時間だったりということでも158万円ですし、それから別の仕

様、次のページのほうでいきますと、増減なしという、これでも110万円いかない、あるいは132万円
で済むということで、現行よりはずっとお安くなるかなという感じです。

それで、議事がどれぐらいの業務負担かということです。そもそもこの問題に入った原点みたいな
問題ですが、最終日のいろいろな意見とか討論とか出たものが全然議会だよりも載せられないという
のは、結局そこから14日たってからしか文字起こしが上がってこないという、この不便さというのは
全議員が何となく感じていらっしゃるというところなんです。それを改善するためにも、その日のうちに
誤字脱字がありながらも出てきたらそれをみんなが修正すれば、14日かかってそこから見直しとやっ
ているものよりも、誰が作業するかは別ですけれども、早い時間でそれが上がってくれば最終日の大
事な最後の討論とか、そういったものも議会だよりも載せられると。そういったことではそんなに皆
さんが御負担になるような作業ではないと思っています。今だって誤字脱字の修正をやっているんで
すから、同じ形でやっていただければいいだけです。

その取りまとめで執行部がどう関わりを持つかということに関しては、人を増やす、あるいは今い
る人員で業務を増やす、あるいは分担して議員たちが請け負う、いろいろな方法がありますので、そ
こに関しては別途、本当に導入するかどうかの合意形成の後で、しっかり工夫をしながら考えていっ
たらいいかなと思っています。

○長谷川則夫委員長 事務局長。

○松岡正純議会事務局長 先ほど、事務局の負担についての御質問が何度かございましたので、具体
的な数値として表したものはございませんが、おおよそA I 議事録にした場合には、今までは委託業
者のほうから上がってきたものをそのまま確認していただいて、微修正だけするといったところが、
A I 議事録といえどもやはり間違いというものがあると思いますので、恐らく事務局の職員が会議の
録音データをもう一度聞くという作業は必要になるかと思います。

今現在その作業が必要はないというのは、委託事業者のほうで文字起こしした上で、委託事業者の
社員が確認して上げてきていると思います。その部分は今後は事務局の職員が会議録のデータを聞き
ながら確認するということが必要になるかと思います。

それから、現在委託事業者のほうから上がってくる議事録は正式なフォーマットに落とし込まれた
ものですので、そのままだと何もミスがなければ議事録として使えるんですけども、A I 議事録の
場合は文字が羅列されてきていますので、それを正式なフォーマットに整えなきゃいけないという作
業が出てくると思います。

ちなみに、前回の10月9日のときの会議資料に、他市の状況が載っていますので見ていただきたい
んですけども、10月9日の議会活性化特別委員会の資料の05の「議事録 I C T アンケート取りまと
め」という表がございます。そこの3ページ目を御覧いただけますでしょうか。これは事務作業のア
ンケート結果になるんですけども、分かりやすいところが、自治体名で一番右の白川町というところ
ですけども、そのセルの一番上のほうです。一日中行った会議録の編集時間は10時間程度である

ということで、一日中だと七、八時間、五、六時間ぐらいはあるんでしょうか。それで10時間程度実際はかかっていますという結果が出ています。そういったような事務作業が、金額的には出しておりませんが、発生するものと予想しております。

以上です。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 今のところ、白川町は多分UDトークからコピーして、それを修正するのに編集時間が10時間ぐらいということです。UDトークに関しては正確性を捨てていると奥州市議会も言っていたように、これで時間が結構かかっているのかなという気はします。

それと、以前取手市議会に議会だより編集委員のほうで視察に伺わせていただいたときに、取手市では同時進行で見て、その場で修正している人がいたんです。でも、それに合わせて白井市の人数は対応させる必要はないと思っていますので、自動的に文字になったものを後でそれぞれの発言した人なりが修正したことを事務局に上げれば、事務局の作業は随分減るかなとは感じています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 これは2つのチームが終わってから総合的に発言しようかなと思っていたんですが、事務作業量ということに関しては、本当に今回2つのチームは別々じゃなく連動しているなというのを多分聞いてもらうと分かると思うんです。例えばライブ字幕を作るのにUDトークを使ったりすると、もう議事録の赤ちゃんみたいなものができちゃうわけです。だから、それをどう活用するかみたいな。さっき奥州市議会のことを言ったのは、UDトークと議事録を作るのはもう別の作業でやっているけれども、本当は字幕にしたという時点で文字化されているんで、それを委員長報告の前に私たちが多少誤字があっても活用するというのは十分可能だったりします。

あと、やはり正式なものにするのは大変だと思うので、そこのところは2つ聞いてもらった上で、私たちが頑張ってチェックすればできるかなと私も思ったんです。UDトークの場合だと会議の倍かかるというのが、今ここに一応白川町のとかで分かっているんで、それだとしたら全部の文字起こしから委託しなくても、こっちが文字を持っている状態で整えるのを委託したら幾らとか、何かそういう考え方もできるのかなと私は思っています。

そこら辺は2つ聞いてもらった上で、総合的にここも知りたいねというのが出てきたら、今度はみんなのチームとして決める段階で、また不十分なところは一緒に調べてもらえたらなと思っています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 すみません、もう1点、金額のことで確認したいことがあります。資料にある数字の中には議事録の製本代も含まれてこの金額ですか。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 製本代は入っておりません。それで、議事録も、例えば今全員に配付する形でやっていますけれども、今後精査が必要だと思っているんですが、製本する冊数ももしかしたら減らしていくことは可能かなと思っています。製本費用は入っておりません。

それから、先ほど徳本委員もおっしゃったんですけれども、UDトークのことをいろいろ言ってもイメージを知っている人と知らない人がいるので、まずUDトークの説明を聞いて、その上で全体的な質問というふうにさせていただいたほうが、皆さんのイメージが分かりやすいかなと思いました。

○長谷川則夫委員長 ということで今進んでいますけれども、今お話があったように、出来上がったものの後処理に関してはいろいろな方法がありますので、それらについては今後導入すると決まったらある程度交渉していくしかないかなと私も思っています。

これに関してまだ質問ございますか。よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 では、次の字幕のほうの発表をお願いします。

徳本委員。

○徳本光香委員 リーダーの久保田委員が。

○長谷川則夫委員長 久保田委員になるんですか。

○徳本光香委員 その前に、すみません。

○長谷川則夫委員長 その前、はい。

○徳本光香委員 紙でも資料をお配りしています。各パターンについて両方比べて見てもらうと見やすいと思うので、画面なり紙なり両方見てください。

○長谷川則夫委員長 では、久保田委員、よろしいですか。

○久保田江美委員 では、説明させていただきます。前回いらっしゃらなかった方もいるので、少しまとめとしてお話しさせていただきたいと思います。

最初にですが、調査結果のまとめ2というところで、2ページです。調査結果のまとめ1、どの字幕表示がよいかという点で、各議会で採用されている字幕の表示形式をまず調査しました。映像の横に議事録をそのまま表示する形式、これは後ろを見ていただきますと、7番のほうのこの形になります。また、次の映像画面の下に字幕を表示する、これが8番の形になります。また、最後に、これはUDトークの字幕を表示というのが、船橋市議会のほうを訪問させていただいて、私たちはUDトークの字幕の表示を見させていただきました。

そしてまた、市内の聴覚障害者の団体の方々から意見聴取をさせていただいたら、議会を傍聴できること自体知らなかったという意見とか、映像だけでは発言内容が分からないので、やはり聴覚障害がある方としてはライブ映像と録画字幕、両方の字幕が欲しいというのが要望にありました。

次に、2番目です。3ページ目になります。調査結果のまとめ2として、実際の字幕の導入状況です。これが録画映像字幕とライブ映像字幕の導入状況となります。前回の報告では、録画映像字幕よ

りもライブ映像字幕の導入議会のほうが多いとさせていただいたんですけども、実際には違いました、これが次のほうになるんですけども、4ページ目、336議会のうち42議会が録画の映像字幕の導入でした。これが実際の映像です。市町村議会のほうはこちらにまとめさせていただいていますので、皆様で御覧いただけたらと思います。

では、次のほうです。ライブ映像字幕の導入議会というのは、これは一応入れるんですけども、大和速記情報センターという、議事録とかを作っていたりとか、あと映像配信をされている会社から調べさせていただいています。それは両方共です。ライブ映像字幕が336議会のうち11議会、そしてライブと録画両方導入されているのは4議会になります。

そしてまた、UDトークは、先ほどお話しさせていただいた船橋市で使っているところですが、これが13議会となります。これはライブ映像字幕のみになります。

そしてまたこの次に、考えられる字幕のパターンというところで、ライブ映像字幕はつけないという録画映像字幕のみ、もしくはライブ映像字幕をつけて、これが2種類ございます。これがUDトークの字幕と画面下部の字幕になります。これはどちらかというところと細かく説明していくより、恐らく次のチャートのほうが見やすいので、こちらのほうで説明させていただこうかなと思います。一応費用も一緒に書かせていただいています。

今現在かかっている字幕なしの映像配信の額というのが年間171万6,000円かかっています。そしてその中で、今話をしていくのはこれにプラスしていく形になっていきます。この171万6,000円というのは下がることはないです。ここにプラスという形になります。

また、先ほどお話しさせていただいた、最初、当初のこの委員会のほうで話し合うと言っていたのが、録画映像に字幕をつけるという、これがまず、ライブ映像字幕はなしで録画映像だけにつけますという1時間5,000円、それがこの議会は年間約100時間ほどになります。そうすると年間約55万円、これが今の171万6,000円にプラスで55万円かかってくるという形になります。

これはすごく分かりやすく映像をつけていただきましたので、こういうふうに今、岩田議長の映像があるんですけども、下に文字が入るような形になります。

そして、次に右側のライブ映像字幕をありにした場合のお話をさせていただきたいと思います。ライブ映像字幕ありにした場合は2種類ございます。そのうち左側のUDトークの字幕というのがありますが、こちらが先ほども見ていただいたもう1つのほうの資料の7ページ、映像と字幕は別になります。なので、御自身のスマホだったりとかタブレットで字幕を見ていく形になります。なので、下に字幕がついたりとか、横に字幕が出るということとはできないというのがUDトークの形になります。

このUDトークのほうの費用感というのを見ていただきたいと思います。そうしたら、もう一度この表のチャートを見ていただきたいと思います。UDトークのほうを導入するとすると、まず初期費用が5万5,000円かかります。そして、年間の費用が35万6,400円です。そのため、まず1年目は41万1,400円ということになります。そして、これにもしも先ほどの録画映像の字幕のほうもつけるとな

ると、プラス55万円になっていきます。これはどちらも一つずつ選ぶことができるので、ライブだけをする、録画だけにする、そういうことも全てできるというふうになります。

これが今3番のほうで96万1,400円、これが初期の費用となります。そしてこれは、先ほど言いましたが、初期費用というのは5万5,000円かかりますので、2番目のライブ字幕のみにしますと2年目以降は年間35万6,400円、これがUDトークを使う代金となります。また、これは同じようにプラスで55万円つけるかどうかというのは考え方だと思います。

それでは、また右側のほうを見ていただきたいと思います。画面下部に字幕をつける一番見やすいタイプ、これは非常にお金がかかるんですけども、初年度、もうこれだけで、ライブ字幕にのみつけるだけでも410万8,500円かかってしまいます。

これは細かいお話をさせていただくと、今映像の配信が171万円かかっているというところが、チャンネルを2つ持つ形になってしまいます。なので、1つは下部に字幕がついている映像、また、下部に字幕がついていない、その2つのチャンネルを持たなければならないため、これだけのお金がかかるというのがあります。

そして、一応あと2年目以降というのは初期費用は抑えられてきますが、でも年間151万8,000円、これはライブ字幕のみです。録画をつけるとなるとこれにプラス全て55万円というのはかかってくるというのが現状になります。

一応説明はこのぐらいにさせていただきたいと思います。ほかの委員の方で何か補足していただくことがありましたらいかがでしょうか。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございます。

先ほど、徳本委員のほうで何か補足説明があるということをおっしゃったので、ありますか。徳本委員。

○徳本光香委員 すみません。久保田リーダーにも分かりづらくしちゃったかもしれないんですけども、1個だけ訂正があって、パワーポイントの4分割のほうの資料なんですけど、2ページ目の調査結果のまとめの1のどの字幕表示がいいかのところで、最初の丸ポチ、映像の横に議事録をそのまま表示するというのは、あれです、どこの市議会でしたか、映像に本当の議事録がそのままが貼りつけられている。

○久保田江美委員 吹田。

○徳本光香委員 ありがとうございます、吹田市のを聴覚障害の人と一緒に見たんですけども、それはしゃべっている映像と全部の議事録が同じ画面に入っているという形なんで、それだと聞こえない方にとってはパクパクやっているのと全部の議事録のどこをしゃべっているか全然分からないというパターンだったんで、このUDトークのとは違う、却下だなというのが私たちも分かったというのが1個目という、そこだけですかね。

あとはこのフローチャートを見て検討してもらえればなと思っているんですけども。今回、全体

的に調べてみて思ったのは、平田委員がすごくもう本当にアミボイスのいろいろな種類を調べてくれたんですけれども、UDトークも機能というか脳みそというか、日本語を認識して文字化するという機能自体はアミボイスの機能を使っているということが分かったんです。昨日改めて精度を調べてみたら、アミボイスの会社がやはり精度は90%以上ということでかなり高い、日本一シェアしているところの音声を文字化する機能であるということです。

あと、UDと言っているからにはユニバーサルデザインなんで、障害者の方とか、いろいろな人が使いやすいようになっているというのがUDトークだなと思っています。

あともう1個、右のほうの画面下部の字幕としか書けなかったんですけれども、画面内に入ってくる字幕のほうも、今、議事録を作るのと映像配信をしてくれている会社がたまたま大和速記情報センターで、白井市議会と契約しているところなんですけれども、ここも、ではどうやって議事録を作っているかという、アミボイス関連の会社だということが分かったので、基本的には今回話されたことというのは全部アミボイスの、何だろうな、日本語文字化の脳みそを使うというところではあまり変わりはない。その後、仕上げのときにどこまで誰がどう関わるかというところがポイントになるということです。

あとは、追加費用ということに焦点を絞ると、フローチャートの一番下を見てもらうと、UDトーク枠の左下、自分のスマートフォンでアクセスして字幕を見るという形なんで、機材の更新は必要ないということがあります。大和速記の右の画面下部のほう、ここは久保田リーダーも説明してくれたように、410万円かかってしまうというのがあるんで、皆さんもこれはなかなか選びづらいじゃないかと思います。機材を買うんです。だから、更新も必要になるということもありますし、その間にどんどん技術もアップするでしょうから、ほかに乗り換えたいなと思うときに買っちゃうと難しいというのもあるんで、みんなに検討してもらおうとはいえ、正直右側はないかなと、全部一式買ってというのはなかなか難しい選択肢かなと思っています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 この件に関して補足はありますか。徳本委員。

○徳本光香委員 もう1個ありました。あと、これは本当に参考ということなんですが、フローチャートの一番左下を見てください。これに関しては、今の大和速記がそのまま契約という場合に、機械を一式買って、ライブ映像の生中継の字幕付映像は大和速記にお任せするという場合です。例えば100%正確ではないと言っても、辞書機能というのはUDトークもあるんです。だから、会を重ねるごとに白井市議会仕様の辞書にしていくとどんどん精度が上がるということがあって、それで、ちょっと間違いはあるけれども、ほかの議会でもやっていたりします。ユーチューブで流しているところなんかはやっていますけれども、100%字幕は正確ではないですけれどもという断り書きを載せて、また、今やっているとおり、完成した議事録もここから見られますという案内もつけた上で、ライブの字幕をそのまま貼りつけたまま流し続けるという方法をした場合は、格段に2年目以降は安くなる

というのを参考に、こういう可能性もあるというのを検討している中で出てきましたというのが6番です。

以上です。

○長谷川則夫委員長 これに関して御質問ある方はいらっしゃいますか。

石原委員。

○石原淑行委員 ちょっと理解が悪くてすみません。④の画面下部の字幕のところのフローチャートの、④ライブ字幕の410万8,500円というところは2つ必要だという、そのところが分かっていなくて、ライブ字幕のみの画面のだけじゃ駄目ということですよ。すみません、そこが私はちょっと理解が。

○徳本光香委員 そう、それはすごくややこしいですよ。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 事務局のほうでまず字幕がついた映像を作るんです。それをインターネット上に載せてしまうので、インターネットで配信されるときはこの映像はずっと流れ続けてしまう形になるんです。なので、結局字幕がついていない映像というのをもう1個撮っておいて、そうしないと次に差し替えることができないんです。意味が分かりますか。

○石原淑行委員 ちょっと理解が。

○久保田江美委員 映像があります。例えば普通に考えたら、映像だけと字幕をつけたものが別々になっていれば、その字幕だけを取ればいいよねと思うじゃないですか。チャンネルの中で。意味は分かりますか。インターネットで流します。流すときに、上に画像があります。下に字幕があります。そうしたら、例えば議事録ができたなら、この字幕は精度がよくないからこの字幕だけ取ればいいと考えるんですけども、そういうことができないんです。それはもう映像と字幕が一緒にくっついてセットの映像として流しているの、インターネットにもう一度流すときに映像だけのものを流したいとなると、これをもう1つ作っておかなければいけない。だからチャンネルを2つ持たなければいけないということになるんです。2チャンネルという状態です。これを2つ作ると、結局171万円が2倍という言い方は変ですけども、そういったお金がかかるようになってしまうのでという話です。

○長谷川則夫委員長 石原委員。

○石原淑行委員 今の説明だと、精度が低いから、最終的に残す完璧な議事録を見てくださいということにする場合に、精度の低いものが残り続けちゃうのが困っちゃうからということの2つ必要ということでしょうか。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 そうです。その認識で合っています。

○石原淑行委員 そうということですね。分かりました。

○徳本光香委員 いや、めちゃくちゃ難しいですよ。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 よく自分の家のテレビでも日本語を下にというのを操作で使えるじゃないですか。そうすると、画面全体を見たいのに下の映像が切れちゃう。例えば一般質問なんか、スクリーンでPDFがあらかじめ家で視聴している人にも流されたりするときに、下が全部文字で切れちゃうということになるのかなと心配致します。その辺はどうなのでしょう。要するに、文字と一緒に見たい人と、文字は要らないという人がいらっしゃる場合に、使い分けが視聴者のほうで選択できるのかどうかを伺います。

○伊藤 仁委員 2つチャンネルを表示するでしょう。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 それはいいです。画角を小さくして下に字幕の部分をつけるので、ちゃんとこの決まっているところには、この形をちゃんと作るという形になります。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 この資料の左側を見ますと、岩田議長の画像の下に字幕が入って、下の画像が切れているという状態になっていますが、これはないということでもいいんですか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 これは私の技術不足、認識不足です。書いておいてもらってもいいです。私も昨日、録画映像字幕で42議会、幾つかのぞいてみたんです。ライブのほうはもう消えているんで、録画映像のほうを見てみたら、ちゃんと全部映像がある下に、初めは、あれ、字幕ないなと思って消しかけたんですけども、そう思うぐらい、全部画面があって、その下に新たに白いラインというか、が出ます。だから、私の資料が間違いです。すみません。これは映像を切ってしまうみたいになるけれども、完全に今配信されているものの別枠みたいな感じで録画の字幕はついていました。全部大和速記調べだったんで、同じようなスタイルだったから、画像は切れないということを確認しています。

○長谷川則夫委員長 武藤委員。

○武藤美砂子委員 録画字幕はずっと残るんでしょうか。それとも、先ほどのお話だと、正確性というところで、議事録が出るまでの補完ということでお聞きしたんですけども、やはり間違った誤変換を残したくないという場合、消している自治体とかもあるんですか。それとあと、それはランニングコストとかの中に入っていたりとか、そういう自由、その自治体で決めることができるんですか。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 まず、誤変換があるとかというのはライブ字幕のほうだけの話です。録画字幕は議事録ができてから、その議事録を基につけてもらうので、もう正式なものが載る形になります。あともう1点は大丈夫ですか。

○徳本光香委員 選べるかという。

○久保田江美委員 選べるか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 このフローチャートでいうと、今の正式な議事録完成後に字幕をつけるという星マークがついている枠というのは全部完全に100%直ったものを貼りますよというのが55万円というもののなんで、ピンクの値段というのは全部正確な字幕に最終的になる値段なので、ちょっと高いということです。水色の値段が90%の精度でライブ、生中継報道される字幕です。

この中で、正確な字幕が最終的に載るのが1から5番なんです。ライブの誤変換はあるけれども注意書きをして流すとすごく安いというのはあくまで参考に出しているもので、6番だけがそのまま、正確な議事録が載っていないのは6番のみということで、ただ安いというのを参考にしているということなんです。ユーチューブのように、ここで懸念されたように、バンされるとかというのがないということとか、ユーチューブよりは相当精度が高いというのが違いなんだけれども、基本的には録画字幕をちゃんとつけようという検討が基本にあるんで、1から5は全て正確なものが載ります。

それで、さっき久保田委員が説明してくれたように、90%だったものを100%にするときに映像を差し替えるという作業は発生しています。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 100%正確ではないというのは、ライブで瞬間に流れて消えるからそれはそれで、それを100%正確なものでこの赤字のお値段にするための作業は、誰がどんなふうにするという想定なんでしょうか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 そこが聞いてもらってから考えたらどうかとさっき言ったのに戻るんですけども、そこはだから相当、少しの微調整でよさそうであれば、議員が今まで以上に自分の部分をしっかり見るというのでできるのかどうかというのを、平田委員も言ったように、検証してみるというのは必要かなと私は思っています。例えば1時間分のUDトークの文を見てみて本当にできそうなのかとか。ただ、さっきの白川町がやっているものだとかなり時間かかるなというのは想定できるんで、私としては値段を抑えた仕上げの作業の委託みたいなものもあってもいいのかなと可能性としては思っています。

○平田新子委員 どこに委託するのですか。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 平田委員がお聞きしているのは録画映像のあれですか、を委託ということですよ。ね。

○徳本光香委員 議事録を完成させる。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 いや、録画映像の委託じゃなくて、未完成の状態を完成の状態にするのはどなたがどんな作業でやるんですかという質問です。

○徳本光香委員 議事録完成作業。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 この場合は議事録ができてから、録画映像に関しては議事録ができてからになるので、今までの議事録を作っていたものを業者に渡すという形になります。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 業者というのは、現在録音を渡しているその業者に委託するということですか。

○久保田江美委員 映像配信。

○平田新子委員 そうすると、今までと同じ、録音で渡すか映像で渡すかの差だから、値段的には今までとあまり変わらない。UDトークの分が別にかかっても構わない。委託する料金はここには含まれていないということですか。それともこの委託料金に入っているんですか。どちらでしょう。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 議事録はあくまで今と変わらず作ります。その後に、できた議事録を映像配信会社のほうにお渡しして、そして映像配信会社のほうが録画映像字幕をつける。1番の下の部分を作るのにこのお金がかかるということになります。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 そうすると、今おっしゃっているのは、ライブ映像は無しでということですね。

○久保田江美委員 そうです。

○平田新子委員 そうすると、議事録を作ってもらったのを、私たちのほうで何日か後に映像配信として出る分に字幕をつけるということは、録音したのを業者に渡して字幕を作ってもらうという作業は、今までどおりにプラスして、これを映像に載せるお金がかかるということですね。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 そこはチームで一本化していないんですよ。このことはまだ調査不足だなと気づいたところなんです。だから、久保田リーダーがおっしゃるように、もう全部今までどおりで出来上がった議事録を載せるというだけだと55万円というのが、もう一番最初の提案の内容になるんですけども、やはり聴覚障害者の方々とかはライブにもつけてほしいということで、一応検討事項に入ったのでライブのほうも調べました。

そうすると、やはりさっき言ったように、字幕の文字で議事録の基ができるので、それを仕上げるのは全部同じように委託するというのは奥州市議会方式らしいですけれども、私としてはそこは交渉の余地があるんじゃないかなと、そこはまだ調べ切れていないけれども、同じ値段じゃなく、ちゃんと議事録にするにしても、その仕事分の委託料というのは減らせたりするんじゃないかなという、そこは今後調べたいなと思っているところです。

ほかの方も意見があれば。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 ちょっと誤解があるようなので、奥州市議会に申し訳ないので訂正しておきます。奥州市議会は、議事録はA I 議事録で作って、UDトークはライブ配信で横に字幕の画面が出るというのをやっていて、後日の映像配信について字幕はつけていないということです。そこは整理しておきたいと思います。

○徳本光香委員 もう分かっています。

○長谷川則夫委員長 今、徳本委員から発言があったように、UDトークを使って字幕をつけた後に議事録を作るという作業に関しては検証していないので、ここは今回できていないのかなというのと。業者に委託するのと、当然、先ほど言ったのに戻るかもしれないんですけども、執行部にやってもらうにしても、今度人件費がかかってくるので、それとの兼ね合いになるかなと思っています。

ほかに質疑ございますか。

では、1時間たちましたので、休憩をしたいと思います。

再開は11時10分。

休憩 午前11時01分

再開 午前11時10分

○長谷川則夫委員長 会議を再開します。

A I 議事録と字幕に共通する事項もありますので、2つを通して質疑のある方はいらっしゃいますか。

平田委員。

○平田新子委員 質疑ではないんですけども、私どもが資料として提出しました大和の1、2、3、4というところと、UDトークでおっしゃっていた大和速記というのは同じ会社なんです。それで、今回、これとUDトークを抱き合わせたらどうなるかという見積りを取っていないので、同じ会社だから、先程説明のA I 議事録をやりながらライブ配信をUDトークでやるという組合せが可能じゃないかなと思うんです。それについては改めて見積りを取っていただけたらなと希望いたします。

それを足しても今の五百何十万円にはならないわけなので、そういう意味では、今までより安くなって、聾啞者だけじゃないんですよ。やはり小・中学生とか、字幕がついていたほうが見やすいという人、それから、耳がだんだん遠くなってきた高齢者とかもいらっしゃるので、抱き合わせた場合の見積りを取ったらどうかということを提案いたします。

○長谷川則夫委員長 可能かどうか分かりませんので、事務局に確認いたします。

そのほかございますか。

荒井委員。

○荒井靖行委員 ぜひ事務局の方に確認というか調べていただきたいことがあります。それは何かと

いうと、実際に私たちが最初に取手市に行ったときに、取手市の職員の方々がA Iの議事録を作る過程はその場でやっていたんです。ですから、実際に正確な議事録がもう夕方には出来上がっているという、このスピード感がすごくいいなと思っていたんです。そういうことが白井市でもできるのかどうなのか、その辺りをぜひ取手市の事務局に確認や聞いていただけると非常に助かるなと思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 武藤委員。

○武藤美砂子委員 ライブ配信ということで、UDトークとか、いろいろ勉強させていただきました。日進月歩でいろいろな意味で精度がこれからどんどんよくなっていくと思うんですが、やはり私たちの議員の発言の正確性というか、滑舌というか、時々議会の中で、「あの一」とか「え一」とかという言葉を発してしまうときもあると思うんですけれども、そういうところの文章の正確性というのはどのようになっているのでしょうか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 確実には言えないですけれども、私が調べたところでは、そういうのは抜けさせて議事録にしている機械がすごく多かったです。ただ、UDトークでライブの場合はそれをそのまま文字化しちゃうかもしれないんですけれども。どっちの質問ですか。議事録のほうだと大分削られています。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 この間、私たちが話合いをしているのをそのまま文字起こしというか、白井市がお借りしている分を議会でもお借りして使ってみたところでは、「え一」とか、「あ一」とかは抜けて、だけれども、誰かがしゃべっているのかぶって言ったら1人の人がしゃべっていると認識したりとかということは多少あるかもしれないです。

それから、議事録のフォームに落とし込むというのは、最初からこういうフォームでと入れておけばできるというお話でもありました。

それで、奥州市議会を導入して困ったことは何かありますかというのと、東北なので方言で言った場合に誤認識をすることがありますと言われたんですけれども、白井市議会の方はほとんど標準語でしか質問されないの、多分方言の誤認識はないと思うんですが、「え一」とか、「あ一」とかに関しては抜いたものが上がってくるようです。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 すみません。今の武藤委員に対する回答の一つというか、参考になればと思って手を挙げているんですけれども、精度で言えば日本の中ではアミボイスの音声認識がもうトップレベルなんです。それ以外で標準で使われているグーグルとかユーチューブとか違う認識ソフトだと、固有名詞の認識が弱くて、分からない単語が出てくるとそこは空欄になって飛ばして表示をしてくる、もしくはストップしてしまうというような現象になるというところが認識力の弱さということであり

ました。一方、UDトークのアミボイスのほうは、固有名詞の認識率が高いんです。それを補完するための単語登録という機能もあるので、より強固になっている。

もう一つ、「あー」とか、「えー」とか、そういうふうに挟んじゃう言葉は、オプションでというか、無料ですよ、外すというチェック項目があるんです。それを外すことでそういった言葉もカットできるから、より認識率が高いというのがアミボイスになっています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ほかにございますか。よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 それでは、次に進みたいと思います。3点目のタブレットの見直しに関して報告をお願いします。

小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 すみません。資料で言うと、6番、7番がタブレットについての結果報告になります。前回提出したのが全員分ではなかったもので、今回18名全員のアンケートという。

○長谷川則夫委員長 すみません、17名になっています。

○小田川敦子副委員長 17名のままなんですか。

○長谷川則夫委員長 はい、ままです。議長が提出していただいた。

○小田川敦子副委員長 16名だった。

○長谷川則夫委員長 16名、はい。

○小田川敦子副委員長 ということは、1人未提出の方がいるままだと。

○長谷川則夫委員長 先に申し上げておきますけれども、田中委員がお休みされていましたので、そのときにアンケートの送付と集計をしておりましたので、田中委員に関しては集計に参加されていないという事情がございます。

以上です。

○小田川敦子副委員長 分かりました。失礼しました。そうしたら、6のほうのアンケートの資料をお開きください。よろしいですか。

まず、設問1のタブレットの利用状況について、これはもうほぼ使っている状況がこの結果から見て取れます。利用の場面に関しては自宅が多いということで、主に自宅のWi-Fi環境下の中で議案を確認されているという様子が見て取れました。

ただ、活用頻度に関しては5割以上ということですが、ほかの自由筆記のところからは、必要以上にタブレットを議案以外で使えないというような話もありました。

次に、設問の2に入ります。タブレットを導入してからの状況ということで、電子メールについては、これは貸与されている電子メールのアドレスに関してのやり取りということになりますが、2-3を見て分かるように、ほとんど事務局との連絡に関して特化して使っている状況が分かります。

そして、タブレットに関しては、２－４になりますけれども、議案や会議資料が閲覧できることはとても便利だという感想が多いです。ただ、それ以外のクラウド本棚、電子図書室であるとか、次のページに移りますけれども、情報検索、それから写真撮影など、議案を見る以外の機能に関してはまだあまり活用の状況は高まっていないということが見て取れます。

次に、設問の３ですけれども、資料の電子化についてです。この中で確認すべき事項は３－２になります。今後も資料の電子化、ペーパーレス化を進めるべきかというところでは、「１、完全ペーパーレス化を目指すべき」が２名、次は「資料を選別しつつ積極的に進めるべき」が９名、「今以上は進めなくてもよい」が５名、つまりここのアンケート結果からは、現状維持を求める意見が多いのかなと受け止められると思います。

完全ペーパーレス化というのは、今現在予算決算は紙でいただいているものも全て含めてということになりますと、やはりそこは紙ベースとして置いておいて、現状の使い方を拡充していくというのがアンケートで受け止められる結論なのかなと考えています。

次に、設問の４です。本会議、委員会での活用について、４－１の「閲覧して会議に臨んでいるか」という設問に関しては、これは事前に確実に閲覧しているということが分かりました。閲覧に関しては事前に事務局からもメールで連絡がいておりますし、前日に確認するということは充電等を含めて当日に備えた対応がされていると受け止めています。

その次に、４－２と４－３に関しては、「本会議中に困ったことがあるか」ということに関して、「時々困ったことがある」、それから、「困ったことがある」という方が１０名いらっしゃるから、やはり使い方の、何というんだろう、練習というんですか、使い方のレッスンみたいなものは継続して必要なのかなと感じました。

４－３の「オンライン会議に参加する上でタブレットを使用する可能性について」は、「可能性がある」１２名、「可能性はない」５名ということで、やはり将来の展望を見据えたタブレットでのオンライン会議に参加する対応というものが、タブレットにも求められているのかなという結果として受け止めています。

その次に、設問５、タブレットの更新についてです。これに関しては、タブレットの費用負担、それから更新の時期をお聞きしたところですが、これに関しては、やはりタブレットは機械ものですので、今後どうしていくのかというのは検討が必要な事項だと思います。それは、ここでは各自の意見としてアンケートを取りましたけれども、こういう点を踏まえて、議会活性化特別委員会が終わった以降でもタブレットを使っていく方向で、今後、方針等をどうしていくのか、費用負担をどうしていくのかという検討の継続が必要であると思われます。

最後に、設問の６、今後の取組についてです。これは３つ以内で選んでくださいということで、今後ＩＣＴを活用した議会活動を進めていくために必要だと感じることをアンケートを取らせていただきました。一番多かったものが、「１、ＳＩＭカードを使い、Ｗｉ－Ｆｉ環境以外でのインターネット

ト通信を可能とする」、その次が、「4、議会活動に役立つソフトウェア、アプリの充実」、今の制限をどう緩和していくかということになります。

その次に、その他の意見がばらばらと5にあるわけですが、皆さんからの自由意見、自由筆記も踏まえて、今後の取組についての継続をどう考えていくのか、そういった協議の場を、今年度中に終わってしまうこの特別委員会以降どう検討していくのかということが大切な検討のポイントになってくるのかなと感じています。

以上、雑駁ではありますが、アンケートに関しての説明と、それから、大きな意見のところを申し上げさせていただきました。以上です。

○長谷川則夫委員長 ただいまのアンケートの報告の件、補充、追加で説明をさせていただきますけれども、特に6のところで意見が多かったSIMカードの解除、それからソフトウェアの充実というところは、結構皆さんからいただいた意見が多いので、これは最後にもう一度この委員会で諮ります。ただ、この委員会だけで決めても、実はその後に来る費用負担をどうするかという問題が必ず起きてきます。それはこの委員会ではなくて、どこがいいか分かりませんが、別の委員会でこうしましょうという案と、それから費用が出た場合に案分をどうするかというところまでありますので、そこまで考えていただいて御判断をお願いしたいと思います。

この報告について何か御質問ございますか。よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 それでは、先ほど申し上げたように、今までの報告を基に、今日出た宿題もございまして、それに合わせて次回のこの特別委員会の日程をまた調整させていただきます。

そこで、なかなか最終結論を出しにくいかもしれませんが、会派でお話をさせていただいて、例えばここまでやるとか、いや、一部やるとか、やらないとかいうお話までいければいいと思っていますので、その辺の検討を各会派でしていただいて、次回の会議に臨みたいと思います。よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

皆さんからほかに何かございますか。大丈夫ですか。

小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 一応次回の協議のための特別委員会、次回の時期というのを、一応この辺りと示していただけるとありがたいです。例えば議員研修の前後とか、でもそうすると先過ぎるかなという気もするので、その辺も含めて、今、皆さんと。

○長谷川則夫委員長 一応私が考えているのは、12月の最終日以降は結構難しいと思うので、できたら次の定例会の前に開きたいんですけども、その辺はまた調整をさせていただいて、お話をさせていただきたいと思います。できれば2月、定例会に入ってしまう前、皆さん一般質問の準備とかありますので、その前にやりたいと思っています。

以上です。

平田委員。

○平田新子委員 先ほど要望として出しました、A I 議事録と字幕の合わさった見積りは、次の定例会の前に開きたいとおっしゃっている次回活性化特別委員会開催前に取っていただけたらというので、事務局のほうと連動して日程を決めていただきたいと思います。

○長谷川則夫委員長 ほかにございますか。よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 なければ、以上で議会活性化特別委員会を終了いたします。慎重なる御審議をありがとうございました。

閉会 午前11時28分

以上、会議の顛末を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和6年 月 日

白井市議会活性化特別委員会委員長